

なりた めんたるへるす

第27号(平成29年3月)

編集・発行

成田市精神保健福祉推進協議会

〒286-8585 成田市花崎町760

成田市役所障がい者福祉課内

TEL 0476-20-1539 FAX 0476-24-2367

記事一覧

- ◇ なりた精神保健福祉フォーラム(平成28年7月開催)
- ◇ メンタルヘルス講演会(平成28年10月開催)
- ◇ なりた精神保健福祉セミナー(平成29年3月開催)
- ◇ ピアサポート活動 街かど心の集い 精神障害者家族会なりた会

～☆～

地域で暮らすために

さまざまな障がいの特性から、できないことへのサポートや相談などが必要な場合、また、ご家族などの身近な方の支援が難しくなった時に、どのような支援が受けられるのか、ご紹介します。

日常生活のための補装具や用具を給付することや、自宅に訪問して、家事など身の回りのことへの支援、通所や外出の支援、働くための準備として訓練する支援、長期入院等の方が地域で暮らすための支援サービスがあります。

また、知的障がい、精神障がいのある方や認知症高齢者など、判断能力が不十分な方が地域で暮らすため、財産や金銭管理の支援の一つとして、成田市社会福祉協議会では、『日常生活自立支援事業』という支援を行っています。利用者と契約をして、預貯金の通帳や保険証書、印鑑などの大事な財産を金融機関の貸金庫に保管することや、日常の生活費に必要な預貯金の預け入れ、払い戻し、公共料金・医療費の支払い、福祉サービスの利用紹介などを行います。利用には年会費や、支援に対する自己負担金があります。(生活保護の方については無料です)

判断することが難しく、契約をすることに対しても支援が必要な場合は、ご本人の財産管理や福祉サービス等の利用契約を行い、また悪質商法の被害を避けるなどのための、成年後見制度があります。これは、本人に代わって契約を行い、また本人が誤った判断で契約を行った場合は、その契約を取り消すことができる権限などを家庭裁判所が選任した成年後見人等(成年後見人、保佐人、補助人、任意後見人)に与え、生活状況に応じた支援を行う制度です。成年後見制度の利用手続きが困難な方に対しては、その手続きを支援する制度もあります。

ご本人がどのように暮らしたいのかに合わせて、支援を組み合わせる利用することができます。制度の利用については障がい者福祉課にご相談ください。

～成田 精神保健福祉フォーラム報告～

テーマ 「居住支援について」

平成28年7月に成田市保健福祉館で「成田精神保健福祉フォーラム」を開催しました。今回のフォーラムでは、NPO法人ほっとハート、社会福祉法人ワナーホームそれぞれの施設から、実際に行っている支援についてお話を伺いました。

1. NPO法人ほっとハート 世話人 西田 元樹氏

グループホームありの実村（共同生活援助、共同生活介護）の世話人をしている西田氏が、普段行っている支援や、実際の住居で利用者の方がどのような生活を送っているのか、写真を映しながらお話ししていただきました。世話人になって2年目の西田氏が、利用者の方と身近で接していく中で分かってきたこと、変化や不安なども含めてお話しいただき、地域での楽しそうな暮らしぶりを知ることができました。

2. 社会福祉法人ワナーホーム 千葉拠点統括施設長 三好 恵理子氏

三好氏からはまずワナーホームの事業についてご紹介がありました。それぞれのグループホームの雰囲気や、そこでの個性あふれる出来事や、利用者について分かりやすく、楽しくお話しをしていただきました。次々と新しく事業所を立ち上げていますが、事前に地域住民に対して説明会を行い、地域の方の心配なことを聞いて、対応を話し合うことで、理解が得られるようになったというお話を伺いました。わかってもらうための努力が、地域で生活していく上で大切な基盤となることが改めて感じられました。

参加者の方からは、ワナーホームの事業所の多さに驚いた、精神障がい者対象のグループホームはまだ数が少なく、親亡き後も自立して地域で生活する場所として事業所が増えてほしいとの意見がありました。单身生活に向けてのステップアップとなる、グループホームの重要性を感じた講演となりました。

～メンタルヘルスフェア成田 報告～

テーマ 「地域で支えるこれからの認知症ケア」

○デイサービスなごみの家 所長 久保 智巳氏

平成28年10月、成田市保健福祉館で第15回成田市健康・福祉まつりで毎年実施している「メンタルヘルスフェア講演会」が開催されました。

久保氏は、認知症看護認定看護師として、日々、認知症の方のケアに取り組んでいる実践より、認知症がどのような病気なのか、また認知症の特性から、どのようなことに気を付けて接すると良

いのか、地域の方がどのように見守りすれば良いのかを、具体的に教えていただきました。講演の中では、参加者もシートで認知症チェックや、手足の運動、頭の体操を行う時間もあり、自分を振り返りながら、楽しい講演会となりました。認知症という誰にでも身近なテーマということもあり、例年よりもたくさんの市民の方にご参加いただきました。

参加者の方の中には、実際に認知症の家族がいる方もおり、介護する側の辛さ等も話されていました。地域での気付きや見守りすることが支援の一つであり、認知症の方もその家族も、安心して地域で暮らしていけるような地域づくりは、私たちにも出来ることであるのだと気付かされた講演でした。

～成田 精神保健福祉セミナー 報告～

テーマ 「地域で支えるための精神保健福祉」

平成29年3月に成田市役所大会議室で「成田精神保健福祉セミナー」を開催しました。主に民生委員や、障がい者の支援事業所の方を対象にしたこのセミナーでは、国立精神・神経医療研究センターの佐竹医師、保健所、家族会とそれぞれの立場から、精神障がいを抱えた人に対する対応、地域でどのように支援をしていくのか等お話ししていただきました。

1. 国立精神・神経医療研究センター 医師 佐竹 直子氏

佐竹医師からは、主な精神疾患ひとつひとつの症状や特徴を、わかりやすいたとえを使い、図を参考にしながら教えていただきました。それぞれの症状に対して、周囲ではどのような支援をした方が良いのか、本人に寄り添って支援することについて講演していただきました。

2. 千葉県印旛健康福祉センター地域保健課

主任上席精神保健福祉相談員 鈴木 剛氏

鈴木氏からは、国・県の精神保健福祉行政の方向性についてお話ししていただきました。相模原で起きた事件をあげながら、ニュース等で報道されるような精神障がい者という印象から、差別や偏見が広まらないでほしいという願いを語られました。地域住民が相談する場所として、保健所の役割も説明していただきました。

3. 精神障害者家族会「なりた会」会長 佐久間 富男氏

佐久間氏からは、ご自身の体験から、本人がどのような症状で、それに対し家族がどのような対応をしてきたかお話ししていただきました。家族としての辛さを話されながらも、助け合ってきた経緯を丁寧に講演してもらい、地域住民への理解を深めたいという気持ちがわかりました。

参加者からは、今回の講演を今後の活動に活かしたいという感想を多くいただきました。精神障がいを抱えた人たちに対して、どのように接すればいいのか悩んだ時のヒントとなる講演になりました。

成田市の精神障がい者 ピアサポートの活動について

同じような病気や障がいを持つ人同士が互いに支えあうことをピアサポートと言います。

成田市内でも、精神科のユーザーである当事者が、定期的集まって語り合いを行っています。同じ障がいを持った仲間と語り合うことで、一人ではなかなか気づきにくいことを発見する機会になり、『仲間』ならでの相談ができることがあります。街かど心の集いのほか、成田ぴあぴあクラブ（公津の杜）、そう庵（宗吾）などのグループが活動しています。連絡先などは、障がい者福祉課にお問い合わせください。『なりた 心の健康MAP』にも内容のご紹介を掲載しています。

～成田街かど心の集い～

同じような病や悩みを、仲間たちと心ゆくまで語りませんか。

同日に、一人で悩まずわかちあおう『若者こころの集い』も開催しています。

開催場所：成田市保健福祉館

日 程：月1回土曜日 午後2時～4時（日にちはお問い合わせください）

参加費：無料

対象者：うつを体験した方、精神科ユーザーの方

心の集いは、集まった皆さんが互いに病気や生活の体験・悩み・思いを話したり、聞いたりする場です。同じ様な病の悩みを持つ立場からのアドバイスや、知りたいこと、話したいことを本音で語り合っています。

予約不要です。お気軽にお越しください。

お問合せ先：成田地域生活支援センター（電話0476-35-7771）

～精神障害者家族会「なりた会」～



なりた会は、障がい者の家族として同じ悩みを持つもの同士が、気兼ねなく話すことで情報交換を行い、障がいによって生じる様々な症状や生活態度への対応について、体験を通じ学び合うと共に、精神障がいについての理解をより一層深め、家族自らが自分を取り戻し元気に生活できるようにしようとするものです。皆さんの参加をお待ちしています。

精神障害者家族会「なりた会」会長 佐久間富男

※家族会・定例会のお問い合わせは、成田市障がい者福祉課 電話20-1539へ